市報 ぎょうだ No. 869
平成30年11月1日 発行

# 行田 歴史系譜 296

歴史を語るこの〝いっぴん〟
～博物館の収蔵庫から～ 32

## 忍藩札の試し刷り

個人蔵・行田市郷土博物館保管

藩札とは各藩が発行し、その領内で通用した紙幣のことです。幕府は金貨・銀貨・銭貨を発行しており、それと対応させるため、藩札も金札、銀札、銭札があり、東日本より経済発展の進む西日本の藩でより多く発行されました。

幕末から明治初年にかけては、各藩とも財政難や幕末の動乱の戦費などのため大量の藩札を発行しました。さらに明治新政府も太政官札などの新しい紙幣や、府県札などさまざまな紙幣を発行し、偽札や偽造金貨も横行したため、まさに「通貨錯乱」と呼ばれる状況となりました。

忍藩松平家では、桑名藩時代に藩札を発行していましたが、忍への転封以降は藩札が関東では馴染みがなかったこともあり、伊勢国や播磨国の飛び地のみの発行としました。しかし、財政難などから武蔵国の領内でも藩札を発行することとしました。写真はその際に印刷された藩札の試し刷りです。額面は銀十五匁で発行元として忍会計局の記載があります。会計局は明治2年（1869）9月の藩の機構改革により勘定所に代わって設置された役所ですから、この試し刷りによる藩札発行はそれ以降であったと思われます。他にも銀三十匁と金一分・同一朱の試し刷りもあり、発行された藩札の実物には銀七匁五分もあることから、藩では金・銀ともに複数の藩札を発行しようとしたことがうかがえます。実際の藩札の発行高は、明治3年4月の調査では17万5千300両となっています。

政府は通貨の混乱を収束させ新しい制度を構築するため、明治2年12月に藩札の増刷を禁止しました。4年5月には新貨条例が制定され、両から円への切り替えが始まりました。忍県では藩札と金札の引き換えのため2万5千両を借り入れ、藩札125両につき金札100両で交換しました。以降引き換えが進められ、完了したのは明治12年7月とされています。地元で使用された期間は短いですが、忍藩札は明治維新という変革の時代が生んだ産物ともいえるでしょう。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

忍藩札の試し刷り

## よろいを着ようボランティア

つながる ひろがる みんなのチカラ
～市民公益活動団体紹介～㉓

郷土博物館で来館者に鎧（よろい）と兜（かぶと）の着付けをサポートし、戦国武将の気分を提供しているのが「よろいを着ようボランティア」です。

活動当初は、有志で市内の小学校を中心に回り、体験学習として甲冑や着物の着付けを行っていた同会。行田市を訪れる観光客にも体験してもらおうと平成11年に正式に発足し、現在は同館で毎年4・5月と10・11月に着付けを行っています。

子ども用と大人用の甲冑を部位ごとに説明したり、重い鎧の着用が難しい小さな子どもにも興味を持ってもらえるよう、歴史をモチーフにしたイメージキャラクターをあしらった会員手作りの陣羽織を縫製したりと趣向を凝らしています。初めは着用を恥ずかしがる子も、いざ身に付けると刀を差し、笑顔でポーズを決めて戦国武将になりきるそうです。

「市外の方も会員として活動していますが、今後は市内在住の会員数をより増やし、地域一丸となって発信していきたいですね」と語る代表の濵中紀子さん。鎧の着付けという、他の町ではあまり見られないユニークな体験を通じて、行田の魅力ある歴史を市内外の人々に向けて発信し続けてくれることでしょう。

【代表】濵中 紀子　【電話番号】554―5911

鎧の着付けは外国人にも好評

**今月の表紙**　水城公園東側園地に移築・改修・復原された市指定有形文化財「旧忍町信用組合店舗」が、9月22日、「Vert Café（ヴェール カフェ）」の愛称でオープンしました。

カフェでは、行田の特産品を生かしたメニューの提供をはじめ、今後さまざまなイベントも予定。訪れた方々に大正ロマンの雰囲気を満喫していただくとともに、憩いの場や交流拠点として大いに活用されることが期待されます。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116